

2023年倉昆一泊調査会報告(2023年7月22～23日 蒜山高原)

三宅誠治

天候は晴れ。猛暑の下界をあとにして清々しい空気の蒜山高原に向かった。そのはずだった。しかし最近の温暖化からか蒜山高原も暑い。各所を転々としながら虫を探す、虫も暑いのだろう、何処かに潜んで姿を現さない。期待が諦めになるのにそれほどの時間は掛からなかったが、チェックイン可能な午後3時までどうにか耐え続けた。大した成果もないまま今宵の宿、貸しコテージ楽寛荘に到着。管理人がエアコンを作動させてくれたのは有り難かった。コテージは3LDKと



普通の住宅並みで、快適に過ごせそう。時間の経過と共に徐々に今回の参加者が集まりはじめ、歓談に花が咲く。コンビニや惣菜店も遠くないので、各人各様の夕食を準備し日暮れを待った。今回の夜間採集では屋台(ナイター設備)は三台。コテージの庭に2台とやや離れた蛇ヶ峠林道の奥に一台が設置された。屋台は、その形が人それぞれに個性的で、



夜間採集をやる人にはそれをネタに大いに話が盛り上がる。同じ虫屋でも、夜間採集をしない人にはあまり理解できないことかも知れない。今回の屋台は、岡本さんの幅2.8m高さ1.8m程の大型設備、岡野さんのある程度の風にも耐える頑強なもの、また今回がデビュー戦になる松山さんは、集虫用のHIDランプと充電器、それにコンパクトな幕から出来た今風なものに思われた。

さあ準備万端、夜の帳が下りるにつれて高原の涼風が昼間の暑さを一掃し別天地へと変わる。そして

蒜山高原に棲む虫たちが次から次へと飛来して幕に止まり、その光景はまるで宝石や秀逸アクセサリーの品評会。それらの中から好みの虫をより取り見取り、参加者一同は一晩中続く虫天国に狂喜乱舞、のはずだった。しかしやって来たのはコガネムシの大群。狂喜乱舞していたのは我々ではなく、コガネムシたちだった。それでも、数種類は含まれているその群れを一網打尽にして手土産としたのは、高校生虫屋の市村君。市村父はと言えば、

そのサポートに忙しい。蛾の飛来数は少ないものの、大学院生の水井さんはこまめに採集していた。過去には県中南部限定の普通種だったフシキキシタバが得られたのは、分布の広まりを裏付けるものだろう。トンボ屋で夜間採集では出番がない守安さんと、最近では展翅拒否症で蛾の採集から逃げている筆者は、ひやかし程度に採集風景を観戦し、あとはビールとおつまみを友として虫談義にふけた。

翌朝の蒜山はやや曇り空で、熱波から逃れられると期待して各々が狙いを付けた方面に転戦。しかし、たちまち憎らしいほど強烈に燃えさかる太陽が頭上から見下していた。

参加者：市村浩一・市村檜文・岡野貴司・岡本忠・松山尚樹・水井颯麻・守安敦・三宅誠治

2023年度夏の例会を振り返って

事務局 岡野貴司

2023年度の夏例会が8月27日（日）午後、「はぁもに倉敷」で開催されました。参加者は19名（うち会員は17名）で、まだまだコロナ禍以前と比較すると6割程度です。2020年度に夏例会の復活を計画しましたが、コロナ禍で2年連続の中止となり、やっと2022年度に実施できました。しかし課題も多く見つかりました。年末例会との違いが明確ではなく、もっと特色あるものにすべきだという意見が多く寄せられましたので、今回はこの点をいくつか改善してみました。その基本的な考えは、夏例会は多角的な視点からいろいろな方法で昆虫へのアプローチを行っていこうというものです。今回、この新しい視点を取り入れた3つのプログラムを紹介します。

- ・講演「阿哲台地の特色ある植物 ～貴重な虫たちのふるさと～」

講師 鐵 慎太郎 氏（倉敷市立自然史博物館 植物担当の学芸員）

- ・講座「昆虫折り紙教室 ～アオスジアゲハをつくろう～」

講師 江頭聖大 氏（折り紙作家、本会員）

- ・発表「私のオススメの採集地」（4名）

水井颯麻氏、市村檜文氏、末宗安之氏、守安 敦氏

講演では植物の専門家の視点から阿哲台地の特色ある植物を地質とからめながら解説していただきました。阿哲台地はこの植物相を反映して特徴的な分布を示す昆虫が多く見られますが、その理解を深めることができました。



江頭聖大 氏

講座では折り紙作家ご自身が考案されたアオスジアゲハの折り紙に参加者が挑戦しました。講師は虫屋であり、この作品にはアオスジアゲハの特徴がよく反映されていました。かなり難度の高い折り紙でしたが、全員がどうにか作品を完成させることができました。

「私のオススメの採集地」は、研究発表というよりも各発表者が自慢の穴場的な採集地を紹介するものです。その中には昆虫の生態に関する



鐵 慎太郎 氏

有意義なヒントが隠されているものもあり、大変参考になりました。

ちょっと“てんこ盛り”のプログラムであったため最後は時間不足になってしまいましたが、今後も年末例会とは一味違うものにしていきたいと思っています。



< 会員発表「私のオススの採集地」 >

私のオススのカトカラ・キリガの採集場所と題して、備前市の閑谷緑地公園を紹介しました。糖蜜トラップでこれまでに確認できたカトカラは11種、キリガは33種です。カトカラはアミメキシタバやクロシオキシタバがよく飛来する他、カバフキシタバも数回飛来し、1個体のみですがヒメシロシタバも得られています。キリガは、スミレモンキリガやヤクシマキリガが見られ、1度だけキマエキリガが飛来しました。灯火採集は未実践なので、春キリガを中心に未確認の種も得られる可能性があります。



水井颯麻 氏



市村檜文 氏

今回は主に私の入学した岡山朝日高校の昆虫について準絶滅危惧種の記録が数件見られたので発信させていただきました。今回発見したのはナゴヤサナエ。朝日高校内に地蔵川水系の川が流れておりこの川の敷地内における最下流において水流が分散しており、そこに流砂が蓄積しており若齢から終齢の幼虫が見られ、同じく敷地内にて成虫も採集したため、繁殖していると見られます。2年ほど前に朝日高校からおよそ1キロ地点の

母校、岡山大学教育学部附属中学校にて飛来した成虫個体を採

集しているため、周辺地域におけるナゴヤサナエの生息は確実と思われます。6月の梅雨や、夏のスコールによる増水、用水路の開放や、閉鎖などの変化にも耐え、9月には若齢幼虫がまだ採集できました。11月現在、繁殖地が増水によって流されてきたゴミによって覆われてしまいましたが、生物部の総力を上げて保全活動を行います。



末宗安之 氏

住んでいるところが美作市なので、自宅から近い兵庫県の採集地を3か所、紹介してもらいました。まず佐用郡佐用町櫛田 飛龍の滝は上郡変はんれい岩体の地質で、岡山県の石灰岩地帯と植物相が似ており、昆虫も希少な種類に出会えることが出来ます。次に赤穂郡上郡町金出地ダムは佐用町櫛田と同じ地質で、深い谷が多く、ライトトラップでホソバミツモンケンモンなど、希少な蛾が見つかっています。最後にたつの市鶴嘴山周辺ではキマダラモドキなど、岡山県ではな

かなか出会えない蝶を観察することが出来ます。西播磨地方はあまり馴染みのないエリアだと思いますので、ぜひ、興味のある方は訪れてみて下さい。

参加者(順不同): 鐵慎太郎, 江頭聖大, 岡本忠, 岡野貴司, 斎藤誠, 大野聖子, 守安敦, 小橋理絵子, 水井颯麻, 寺田剛, 三宅誠治, 富田洋一, 市村檜文, 市村浩一, 山地治, 武田寛生, 武田雅生, 中村具見, 末宗安之



2023年度 年末例会のご案内

日時 2023年12月16日(土) 13:00 ~ 17:00 (12時30分より準備)

会場 倉敷市立自然史博物館 地下講義室

(倉敷市中央 2-6-1 Tel 086-425-6037)

自然史博物館の詳細情報は右のQRコードでご覧いただけます。

「しげい病院かわせみホール」, 「はぁもにい倉敷」は、今回は使用できませんでしたので会場を変更しました。

倉敷市立自然史博物館には有料駐車場(5時間で830円)しかありません。

なるべく公共交通手段をご利用ください。しげい病院の駐車場(車道を挟んでゲートのある駐車場)を利用することができます。例会会場で無料駐車券と交換します。ただし、駐車場から例会会場まで徒歩で約17分かかります。

地下講義室への入場料は不要ですが、2階以上は有料(150円)となります。ただし、高校生以下と65歳以上は無料です。



プログラム

- 1 開会
- 2 話題提供 磯野 裕昭 氏（倉敷市立自然史博物館友の会）
「これができればみんなときめく ワクワクドキドキ クワガタ採ろうぜ！」
- 3 発表（その1）
～休憩～
- 4 連絡・紹介
- 5 自由懇談（標本自慢や同定、情報交換など）
- 6 発表（その2）
- 7 一人一言
- 8 閉会（終了後の集合写真は新型コロナの状況を見て判断します）

参加申し込み

12月10日（日）までに同好会事務局へメールか電話で申し込んでください。発表を希望される方はその題名もお知らせください。 e-mail kurakon@shigei.or.jp
Tel 086-422-8207

注意事項

事前の自宅での検温で、平熱を上回る場合は参加をご遠慮ください。マスクの着用は各自の判断をお願いします。例会後の懇親会は今回も行いません。

【倉敷昆虫館からのお知らせ】

9月1日に書肆亥工房から『倉敷写真文庫2』[なぜ病院に昆虫館があるの？倉敷昆虫館]（モノクロ B6判 64ページ）が刊行されました。倉敷昆虫館の歴史、展示室の紹介、お宝標本、昆虫館の行事に加え、末尾の6ページに「倉敷昆虫同好会の紹介」を掲載しております。倉敷昆虫館がどんな施設か、また倉敷同好会の活動がどんなものかを写真付きで判りやすく説明してありますので、ぜひ倉敷昆虫館や倉敷昆虫同好会を知っていただきたい方々にご紹介いただければと思います。1部990円（税込み）です。TUTAYA、愛文社（倉敷市阿知2丁目）等の書店にも有りますが、近くの書店に無い場合は注文して頂くか、書肆亥工房のホームページや通販サイトなどでご購入ください。



越冬体制に入ったピンク色のクビキリギス

倉敷市在住の方が、9月2日に備前市吉永町三股の農地で採集したピンク色のクビキリギスを当館に寄贈されました。クビキリギスはキリギリス科に属し、広い草地でよく見つかります。ジ - と大きく鋭い声で鳴きますので、その声でも生息が確認できます。

バッタの仲間の多くは緑色を基調としていますが、時に薄い茶色、濃い茶色、ピンク色などの個体が出現します。特にクビキリギスはその傾向が強く、中でもピンクの個体は話題になることが多いようです。



(写真1) 翅の部分は少し緑色

当館展示室のテーブルに飼育箱を置いて来館者に観ていただいておりますが、なかなかの人気者です。エサとしてイネ科の柔らかい葉、キャベツ、ナスを与えてみましたが、どれも食べた形跡があり、



(写真2) 転がっているのは糞ではなくイネ科植物の種

その下にはたくさんの糞が転がっていました。ただし、どれを最も好んで食べたかは分かりませんでした。飼育箱内を元気いっぱいに動いていました(写真1)が、10月中旬から糞の数が激減し、下旬には飼育箱の下に敷いた紙タオルの間に潜んで、ほとんど動かなくなりました。クビキリギスは一般的に成虫越冬で、「バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑」(日本直翅

類学会編、2006)によるとススキなどの大きな株付近に潜り込んで越冬するのだそうです。11月に入ると触角も足も体に沿わずのように畳んでしまい(写真2)完全に越冬体制に入ったようです。そろそろ倉敷昆虫館の展示室に暖房が入りますので、外のビオトープ付近の草むらに移動させようかなと思っています。来春のいつ頃、どのような形で起眠するのが楽しみです。

【事務局より】

○機関誌「すずむし」への投稿について

1. 2023年10月28日の幹事会で決定した投稿規定の改定および追加

①データの日付表記

(改定前) 月の表記をアルファベット小文字半角で記す(i. v. x)

(改訂後) 月の表記をアルファベット大文字半角で記す(I. V. X)

ただし、文中等はyyyy年m月d日でもよい。 環境依存文字は使用しない。

引用文献における発行所の所在地名

・原則として記入しない。

参考文献は原則掲載不要

2. 原稿の提出について

・事務局へ送付すること。(編集担当者へ転送)

・デジタル化したものをメールで提出(USBメモリ、CDは不可)

[kurakon@shigei.or.jp]

なお、現行の投稿規定は、「すずむし」155号(2020)、157号(2022)および同好会ホームページの掲示板(会員用)に掲載されています。併せて、会則は「すずむし」156号(2021)および前記ホームページ掲示板に掲載されていますのでご確認ください。

○「すずむし」追加公開についてお知らせ

これまで、創刊号から135号(2000)までを同好会ホームページで公開していましたが、このたび136号(2001)から147号(2012)までを追加公開いたしました。目次(Excelファイル)とともにご活用ください。

【交換文献】

(2023.6.17～2023.11.9受付分)

文献名	発行
TINEA 27(2)	日本蛾類学会
蛾類通信 (306)(307)	〃
Stady 69 (7)～(10)	大阪市立自然史博物館友の会
インセクト74(1)	とちぎ昆虫愛好会
比婆科学 (276)	比婆科学教育振興会
KORASANA (101)	久留米昆虫研究會
久留米虫だより(258)	〃
佐賀の昆虫 (58)	佐賀昆虫同好会
佐賀むし通信 (298)(299)	〃
中国昆虫 (36).	中国地方昆虫学会
誘蛾燈 (254)	誘蛾会
徳島県立博物館研究報告 (33)	徳島県立博物館
日本昆虫協会ニュースレター (83)	日本昆虫協会
倉敷市立自然史博物館研究報告 (38)	倉敷市立自然史博物館
倉敷市立自然史博物館報 (32)	〃
しぜんしくらしき(122)-(124)	〃
月刊むし (633)	むし社 (年1回の交換)

【昆虫館・事務局 受領図書等】

(2023.6.16 ~ 2023.11.9.受付分)

書 名	著者・編者	発行	寄贈者
生物資源科学	日本大学生物資源科学部	同左	同左
ちょうの舞う自然 (34)	日本チョウ類保全協会	同左	同左
栃木県立博物館研究紀要 (40)	栃木県立博物館	同左	同左
あ！ ハチがいる！	千葉県立中央博物館	晶文社	倉敷市立自然史博物館
昭和55年度 一般国道30号（岡山県側）自然環境調査報告書	財団法人 岡山県環境保全事業団	岡山県環境保全事業団	倉敷市立自然史博物館
愛媛県総合科学博物館 研究報告 (28)	愛媛県総合科学博物館	同左	同左
伊丹市昆虫館研究報告 (10)	伊丹市昆虫館	同左	同左
自然保護センターだより 32 (3), (4)	岡山県自然保護センター	同左	同左
花と虫 ～ 助けあい、せまぎあう植物と昆虫～	栃木県立博物館	同左	同左
吉備高原都市建設事業に係る環境調査報告書 現況編	地域振興整備公団	同左	山地 治
岡山県チョウ類データ集	三宅誠治	(株)アイデアス	三宅誠治
岡山県のブナ林	三宅誠治	(株)アイデアス	三宅誠治

今までかなりの掲載漏れがありました。次号で2012年以降の掲載漏れのものをまとめて報告します。

< 倉敷昆虫同好会 連絡先 > 年会費 2,000円 郵便振替口座 01210 - 2 - 6927
 〒710-0051 倉敷市幸町2-30 倉敷昆虫館内 倉敷昆虫同好会事務局
 TEL . 086-422-8207(直通) FAX . 086-421-1991 E-メール kurakon@shigei.or.jp
 開館：午前9時30分から午後5時まで（13:00から14:00は閉館）
 休館日：月曜日（祝日・休日の場合は開館し、翌日が休館）12月29日から1月3日
 倉敷昆虫同好会ホームページ： <https://www.shigei.or.jp/kurakon/>